

令和7年度 第2回地方独立行政法人香取おみがわ医療センター評価委員会 議事録

開催日時 令和7年10月15日（水）午後1時30分から

開催場所 香取市役所7階 全員協議会室

出席者

(委員) 保津副委員長、野村（幸）委員、青墳委員、田中委員

※ZOOM 井上委員長、野村（勲）委員、寺口委員

(香取市) 吉田福祉健康部長、菅澤地域医療推進室長、鎌形地域医療推進室次長、渡邊地域医療推進室主任主事

(香取おみがわ医療センター)

寺野理事長、桑原病院長、村田事務部長、瀧口経営企画室長（兼医療支援部長）、篠塚看護部長、渡辺副看護部長、中里医事課長、菅谷経営企画班長、伊藤経理班長

※ZOOM 大橋副院長、藤原副看護部長、櫻井庶務班長、菅谷主査、菅野主任主事、高橋主事

次第

1. 開会

2. 香取市長あいさつ

3. 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター理事長あいさつ

4. 委員長及び副委員長の選任

5. 議題

（1）地方独立行政法人香取おみがわ医療センター中期目標期間（令和4年度～令和7年度）の終了時の検討について

（2）地方独立行政法人香取おみがわ医療センター第2期中期目標（案）について

6. その他

7. 閉会

1. 開会

- ・評価委員 2名（保津副委員長、田中委員）の交代の報告
- ・資料の確認及び会議の成立を報告

2. 香取市長あいさつ

- ・伊藤市長は公務のため挨拶を代読

□吉田福祉健康部長

伊藤市長より挨拶の文面を預かっておりますので代読させていただきます。本日は、本年度第2回目の評価委員会の開催にあたりご参集いただき、誠にありがとうございます。

香取おみがわ医療センターが地方独立行政法人化してから3年半が過ぎ、第1期の中期目標中期計画の期間が終わろうとしております。この第1期の期間終了に伴い、今年度は第2期の中期目標中期計画の策定を進めているところでございます。本日は、第2期中期目標の案がまとまりましたので、第2期において香取市が香取おみがわ医療センターに示す目標についてご説明をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、忌憚のないご意見を頂きたく存じます。

今後も香取おみがわ医療センターが更なる発展を遂げられるよう、ご指導ご鞭撻を賜りたくお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以上、伊藤市長からの挨拶でございます。

3. 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター理事長あいさつ

□寺野理事長

先程評価委員2名の交代についてご報告がありました。香取郡市医師会長の保津先生、そして独法化準備に際し、多大なるご尽力を賜りました公認会計士の田中先生におかれましては、今後ともよろしくお願いいたします。引き続き評価委員会をご担当いただきます先生方におかれましても、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

さて、当法人は何とか苦境を乗り越えまして、本年度を持ちまして第1期を終え、来年度より第2期に入ることになります。とは言いながら、課題は多く残されておりまして、特に医師の確保は来期最大の課題と認識しております。近年、医学生の募集定員は全国的に約30%増加しておりますが、東京を中心とした都市部に偏っておりますこと、当地域のような地方病院では医師不足が一層深刻化しております。

このような状況に対し、当法人としても具体的な対策を講じていく必要がある。これが来期における最重要課題であると考えております。加えまして、看護師や各医療技術職の人材確保も大きな課題であります。人口減少が進む当地域におきまして、医療人材の不足は喫緊の問題であり、病院としての魅力を高める取組みが不可欠であります。本委員会に置かれましても、こうした状況を開拓するための方策について、ぜひともご議論を賜りますようお願いを申し上げます。

人材確保に続きまして、財務面においても、依然として厳しい状況が続いております。この課題に関しては、香取市からのご支援が重要な局面となります。当法人としても、収入の確保はもとより、支出の見直しにも厳しい目を持って取り組み、少しでも収支の改善につながるよう努力をしてまいります。

以上のような厳しい状況が今後も続くことを十分に認識し、法人一丸となって対処していく覚悟でございます。委員の皆様におかれましては、本日も積極的なご議論を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

4. 委員長及び副委員長の選任

□菅澤地域医療推進室長

地方独立行政法人香取おみがわ医療センター評価委員会条例第5条第1項に、委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定めるとされております。いかがいたしますか。

■野村（幸）委員

井上委員に委員長をお願いしてはいかがでしょうか。

□菅澤地域医療推進室長

ただいま委員長に井上委員との推薦がございました。他にいらっしゃいますか。

～ なし ～

□菅澤地域医療推進室長

いらっしゃらないようですので、井上委員に委員長をお願いすることに決しました。

■井上委員長

ご推薦いただきありがとうございます。謹んでお受けしたいと思います。

□菅澤地域医療推進室長

副委員長は委員長が指名することとなっております。井上委員長いかがいたしますか。

■井上委員長

保津委員にお願いしてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

■保津副委員長

分かりました。

□菅澤地域医療推進室長

保津委員に副委員長をお願いするということで決しました。

5. 議題

(1) 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター中期目標期間（令和4年度～令和7年度）の終了時の検討について

■井上委員長

地方独立行政法人香取おみがわ医療センター中期目標期間（令和4年度から令和7年度）の終了時の検討について、事務局より説明をお願いいたします。

□鎌形地域医療推進室次長

・地方独立行政法人香取おみがわ医療センター中期目標期間（令和4年度から令和7年度）の終了時の検討について説明

■井上委員長

ただいまの説明に対して、委員の皆様からのご意見ご質問等ございますか。前回の審議を受けてということなので、特段問題ないかと思いますがよろしいですか。特にないようでしたら、本委員会の意見としては、引き続き業務を継続することが適当であるとまとめたいと思います。

～ 異議なし ～

■井上委員長

では、異議なしということで進めさせていただきます。

(2) 地方独立行政法人香取おみがわ医療センター第2期中期目標（案）について

■井上委員長

地方独立行政法人香取おみがわ医療センター第2期中期目標案について、事務局よりご説明をお願いいたします。

□鎌形地域医療推進室次長

- ・地方独立行政法人香取おみがわ医療センター第2期中期目標（案）について説明

■井上委員長

ただいまの説明に対して、委員の皆様からのご意見ご質問などございますか。

■保津副委員長

数年前から問題になっていますけれども、附属看護専門学校、今後も続けるのかどうかという話ですけども、大変難しいと思いますけれども、この点について、いかがですか。

□菅澤地域医療推進室長

令和7年1月に、法人理事長から学生数の減少を理由に、令和7年度の学生募集を最後の募集として、閉校したい旨の申入れが市長宛に書面で提出をされております。この申入れにつきましては、法人側でも3年課程の移行も探りながら、様々な検討をした結果であるとのことありました。

このため、法人の考えを尊重するとして、市側でも1度は承諾したのですが、その後も市長が考えを巡らせた結果、現在は看護師養成機関を何とか残せないか、今しばらく各種関係機関と検討したいという考えでいるようです。

■保津副委員長

具体的にはどうするのですか。

□菅澤地域医療推進室長

市長は、広域的な連携が念頭にあるようですが、具体的な方向性などはまだ見いだせていないという状況でございます。

■保津副委員長

法人側としては、いろんな要因があって難しいという意見をずっと言っていると思います。それについて、やはりこの地域において看護学校はあった方がよいということで、何回かひっくり返っているということですが、法人側と市側の見解が一致するというか、合わないことがないように記述する必要があるかと思います。

□寺野理事長

看護学校の問題について、私が4年前に理事長として赴任した時から非常に大きな問題として把握せざるを得ないような状況でした。全国の傾向もあるのかもしれないですが、やはり看護学生が十分に集まらないことが1つ大きな問題であります。この問題を含めて何とか解決する道はないかといろいろ工夫したのですけれども、結局肝心の当市の学生たちが集まるというのがなかなか難しい。他は茨城県及び鹿児島県の方から来るのですけれども、なかなか近くの学生たちがたくさん集まるという状況ができないのです。

結局学生を育てるのが24人を定員にしたのですけれども、始めはそれに近づけたのですが、1年、2年目ぐらいから、16、17人になって、そして、さらにそれが減ってくる状況の中です。

しかも、学生がこの土地の学生ではなくて、茨城県とか鹿児島県、そちらから来るような学生が多いわけで、育てても香取市にそのままお役に立つような状況がなかなかとれないのです。私共の学校としては3年制の専門学校にしようかということで、高校とも若干相談してみたのですけど、高校もそのまま素直に受けてくれるわけではないのです。

このような状況があって、ちょっとこれは継続するのは難しいのではないかということをもって2年くらい前に市に申し入れたことがございます。

このように、これは続けることがかなり難しいのではないかという認識を持たざるを得ませんでした。

さらに、建物が古くなってきて、それを建て替えるのに30億とか、そういうレベルのお金を出してくださいと言うのは、なかなかきつい問題であります。そういうことを総合して考えて、やはりこれは、なかなか継続は難しいのではないかということで、香取市に申入れをしたという次第です。

けれども、市長の考え方としてみれば、もう少し待ってくれないかと、言われまして、市の政治的な事情もございますので、その辺の全体を勘案して、我々だけが一方的に、廃止と進めるわけにはいかない事情があるので、もう少し様子を見ましょうということになりました。

■保津副委員長

医師会でも准看護学校を経営していますが、こちらも非常に入学者が減少してしまって、本来だったらどんどん育成して、そちらの看護学校に送りたいところですが、なかなか協力できなくて申し訳ございません。これからどんどん進学するように進めていければと思っています。よろしくお願いします。

□寺野理事長

この看護学校問題は、我々の病院で独自に考えるべき問題と、市あるいは県も巻き込んだ形で全体としての在り方というものを考えるということと、分けながら進めないといけないと思います。

香取市でも我々病院独自でもそうですし、千葉県全体としてもそうですから。その辺のことを全体としての状況を考えながら、お互いに検討していくようにしたいと思います。我々だけの方針で進む訳にいきませんので、またいろいろとご協力ご指摘いただければと思います。

■井上委員長

全国的にも看護専門学校が廃校に追い込まれるというのは、かなり今事例として多くなっていると思います。ただ一方で、千葉県は人口当たりの看護師数が全国でも最小くらいの都道府県であることは事実でして、特に昨今病院の看護師がとても集まりづらくなっている現実があって、本当に悩ましいことだと思いました。

■寺口委員

今、井上委員長がおっしゃったように、看護師、千葉県は特に、というか首都圏が特に厳しいのですけど、千葉県の看護師の確保状況はものすごく厳しい状況になっています。ここ何年もワーストの状態なのですけれども、だからと言って看護師が増えていくかというと、これもまた難しい状況にあります。確保することが今後、もっと難しくなるだろうと予測しています。人口減になっていきますので、働く若者も減っていきますので、その中から看護師を選択する人がどんどん減っているのが実情でございます。

その上、看護師の環境というのがあまり改善されていないのが事実で、国にも看護師の処遇改善の要望を出していますけれども、病院経営が難しい状況にあるものですから、看護師の処遇になかなか反映されずに、やはり看護師を選択しなくなっているというのが今の実情です。働く環境をもう少し変えていかないと定着もしないし、確保も難しくなるというのが現状ではないかと今思っているところです。

あと、看護学校の件ですけれど、私、数年前にそちらの看護学校のあり方検討会というのに参加させていただいて、いろいろデータを出していただきながら存続するかしないかという検討をする委員だったのですけれど、その時点では難しいのではないかという結論だったように思います。

ですが、市がお金を出していただけるのであれば、看護師不足ですし、たとえ10何人であっても看護師になるわけですから、存続していただいててもよいと思いますが、井上委員長がおっしゃったように、今の専門学校、3年制専門学校がどんどん閉校になっているのが実情です。千葉県内においてはもう4年制大学が専門学校よりも数としては多くな

りました。

しかし、働く人口が減っているので、その大学も存続するのが難しくなっている状況なので、そういうことも踏まえながら、そちらの学校の存続については、十分議論されたらよいのかと思います。

看護師が足りないのは事実なのですけれど、辞めないことをしていかないと、今後は難しくなるだろうと思いますので、この目標の中にも、確保はあるのですけれど、定着の部分が少し弱いかと感じているので。これは看護師だけではないと思います。医療従事者全体なのですけれども、その辺にもう少し力を入れていかないと、この後の存続がなかなか厳しくなるのではないかと思っています。

■井上委員長

定着のところはぜひ盛り込んでいただくとよろしいかと思います。

■田中委員

第1期の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価集計表を見てますと、情報セキュリティ対策の徹底のところが、令和4年度B評価、令和5年度B評価、最終の令和6年度がC評価となっています。情報セキュリティ対策がC評価になってしまった理由というのを教えていただいてもよろしいでしょうか。

それを受けた上で、今回の情報セキュリティの目標を見ていると、結構一般的なことが書かれているので、C評価に対して、これで十分なのかを聞きたいというのが趣旨です。何か情報セキュリティに関して、インシデントが発生したとかで指示されたのであれば、例えばそういったところをどのように対策していくかということを目標に盛り込んでもよいのかと思います。

□村田事務部長

情報セキュリティ対策がC評価になった理由ですが、令和6年度中に、職員向けの情報セキュリティの研修を行えなかつたことで、低めの評価になったと思います。

■田中委員

では逆に、第2期は4年間欠かさず情報セキュリティ研修をするという形が、今の目標に盛り込まれているという理解ですか。そうすればC評価ではなくB評価になると、C評価を変えるために何か新しいことを入れる必要はないという理解でよろしいでしょうか。

□村田事務部長

はい。情報セキュリティ研修に関しては、年1回は必ず行うことにしております。それ

が行えなかつたので、今年度以降はきちんと行っていきたいと考えております。

■田中委員

同じような話ですが、第1期の中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価集計表の大項目4中項目2小項目(6)医療機器等の稼働状況把握、機器の適正配置のところが、令和4年度B評価、令和5年度B評価、令和6年度C評価という流れになっています。この部分もB評価というのが普通続けられやすいのかと思ったのですが、C評価になってしまった理由と、その部分がどのように目標に盛り込まれるのかを教えてください。

□村田事務部長

経費比率の中で、医療機器に対する材料費比率、材料費に係る金額が非常に多くなってしまったことでC評価にしたかと思います。経費比率の中で、材料費比率と経費比率がどちらも上がってしまったので、C評価という判断をしたと思います。

■田中委員

そうなると、今回の第2期の目標については、例えば経費の削減といったところの項目で、ここでのC評価に対する新しい第2期に向けてのところを盛り込んでいくという理解でよろしいでしょうか。

□村田事務部長

はい。

■保津副委員長

20ページにあります未収診療費、これはどのくらいあるのですか。これはお金を払っていない患者さんがいるという意味ですか。

□村田事務部長

医療費の徴収率としましては99%になりますが、残りの1%分はどれくらいあるかというと、約2,000万円くらいです。

■保津副委員長

けっこうありますよね。一般から言えばそんなにあるのかという額ですよね。どこの病院も悩ましい問題と思うのですけど。この辺はどういう手段があるのか相談しながら、よい手段があれば、強引な回収でなく、スマートな回収ができるとよいと思い意見しました。

■青墳委員

人のところというのは非常に懸念なところで、先ほど看護師の話がありましたが、医師の話もある。15ページの適切かつ弾力的な人員配置、右を見ると、地方独立行政法人のメリットの1つである柔軟な人事管理制度と書いてありますが、具体的にはどういうことでしょうか。

□菅澤地域医療推進室長

弾力的という表現としましては、元々、香取おみがわ医療センターは市立病院、その前は組合立病院でしたが、その時は、議会を通さないと病院側としては決定できないという部分がありましたので、地方独立行政法人化することで、よりスピード感のある判断ができるということで、弾力的であるとか、迅速に対応するであるとか、そういうことを期待しております。

■青墳委員

分かりました。そこに近くなるのですけども、やはりこれから働き手は減ってしまうところで、どの病院でもどの企業でも、いろんな業務量を減らす、平準化する。18ページにＩＣＴの活用等を推進すると書いてあるのですが、既にやられている部分もあるでしょうし、これから考えているところもあると思うのですが、いかがですか。

□瀧口経営企画室長

来月、電子カルテの更新を控えておりまして、医療部門、看護部あるいは医療支援部等でその運用等を見直すことを今現在やっておりますが、引き続きこの来年度以降の業務計画にも入れてあるという状況です。

■野村（幸）委員

2ページの（1）地域医療構想を踏まえた医療の提供ですが、ここに書かれている千葉県が策定した地域医療構想との整合性とは、2027年から始まる新たな地域医療構想のことと指しているのか、従来の地域医療構想のことを指しているのかお聞きしたい。

□菅澤地域医療推進室長

この地域医療構想というのは、千葉県が継続的に策定しておりますので、変われば変わった部分との整合性を図っていくということになります。

■野村（幸）委員

今新たな地域医療構想が大分見直されていて、医療機関機能をはっきりさせる方向になりそうなので、その点を検討しておいたほうがよいと思い、発言させていただきました。

それからその下の（2）診療体制の充実のところでかかりつけ医機能が出てきますが、このかかりつけ医機能は、病院でもかかりつけ医機能報告制度に参加することができると思うのですが、香取おみがわ医療センターが病院として、このかかりつけ医機能報告制度に参加するつもりがあるのかどうかお聞きしたい。

□村田事務部長

今のところ参加する予定はないという状況です。

■井上委員長

今後の経過は、中期計画で具体的な検討になるかもしれません、今、野村委員がおっしゃった地域医療構想との関係で、一般病床で急性期一般入院料を届け出されていると思いますが、高齢者救急の扱い手でもあると思うので、今すぐは難しいと思いますが、地域包括医療病棟をどう考えるかとか、今後の診療報酬の改定の議論を踏まえて、次の期間には検討が必要になるのかと思いました。

項目としてはだいたい包括的かつ網羅的に挙げられているのではないかと思いますので、これを具体的にどういう計画に落とし込んでいくかというところが、今後の作業として進めていただくことなのかなと思います。

■井上委員長

では、本日頂いたご意見を事務局で参考にしていただいて、最終的に中期目標の策定をお願いしたいと思います。本日予定していた議事は全てこれで終了になりますので、以上で議長の任を解かせていただきます。

6. その他

□鎌形地域医療推進室次長

今回の第3回評価委員会は令和7年1月7日（水）に開催予定です。内容としては、第2期中期計画案について、委員の皆様からご意見を頂く予定となっています。

7. 閉会